

季刊

青葉の森から

第49号

2018年7月6日発行



この時期おすすめ！ 水辺を楽しむ散策コース！

夏は散策に出かけるのが億劫になりがち？
そんな時は涼を求めて水辺を目指すコースを歩いてみてはいかがでしょうか。

青葉の森緑地おすすめ水辺スポット！

- 第1位 「化石の森」の滝と沢（写真・大）
- 第2位 「せせらぎ広場」
- 第3位 「花木（かぼく）広場」～「化石の森」
- 第4位 「花木広場」～「チゴユリの道」
- 第5位 「三居沢コース」



ブログで各地点の詳しい情報と写真を紹介しています。



左（第2位）
右（第3位）

第1位「化石の森」は写真の通り、滝がありピクニックにぴったり！第2位「せせらぎ広場」は管理センターからゆっくり歩いて15分ほどなので小さなお子さんとのお散歩にちょうどいい距離感♪第3位はしっかり歩きたい時におすすめ。沢が3本ほどあるのでその本数分アップダウンがあります。ぜひ全コース制覇して”わたしのお気に入りコース”を見つけてください。

ちなみに筆者のお気に入りコースは第4位と第5位。管理センターから少し遠いこと（第4位）、水量が安定せず降水がないとすぐに枯れてしまうこと（第5位）からこのようなおすすめ順としました。特に第5位「三居沢コース」途中にある沢は、自然が創り上げた石組みが見事で迫力満点です！第4位は沢沿いに散策路が続く水音を楽しむコース♪アップダウンも少ないため歩きやすく、コースの大部分は針葉樹林のつくり出す日陰の下という点も夏にはうれしいポイントですね。（K）

コース選びに迷ったら管理センターにお立ち寄りください。
散策予定時間や好み、体力に合ったコースをご提案します！

「この森にクマは出ますか？」

この季節、青葉の森にいらっしゃる方々から受ける質問で最も多いのが表題の質問です。本当に皆さん不安そうに尋ねてこられます。私はこの質問を受けた場合、次のように答えることにしています。「クマと出会うか出会わないかとすれば、出会う可能性は低いと思われます」「クマがいるかいないかとすれば、いると思ってご利用下さい」。

実際に仙台市内のツキノワグマ（以下クマ）の出没状況をみると、青葉山周辺でも何件か目撃されていますので、目撲情報がないからといって青葉の森にクマがいないということにはなりません。青葉の森は公園に区分されてはいますが実際には広大な森林ですし、奥羽山脈から流れる広瀬川と接していますので、クマにとっては移動経路の一部にすぎず、餌が豊富にある住処として最適な環境です。



クマがいて当たり前なのですが、青葉の森が開園して約20年、職員がクマを見たのは過去1件のみ。レンジャーも毎日園内を巡回していますが、今いるレンジャーで（園内で）クマに出会った者はいません。利用者の方でも出会った方は数人です（そのうち何人かはカモシカと誤認した可能性があります）。

このように、実際にクマと出会う、または見るということは非常にまれなことです。それはクマが人間を怖がっているから。人の気配を察知したクマは私たちが気づかないうちに静かにその場を離れていくそうです。クマも「ヒトに会いたくない」と思ってピクピクしながら暮らしているのです。でも、突然出会ってしまったときはパニックになり、怖い一心で飛びかかってきてしまうのでしょうか。それを避けるために人がいることを教える目的で“ラジオを鳴らす” “鈴を鳴らす”など、山に入ると音を出しなさいと教えられてきましたし、実際効果はあると思いますので、散策される方はぜひ実践して下さい。

ただ、最近のクマは山ではない場所にも現れるようになってきているので注意が必要です。その理由は狩猟者の減少でクマ自体の個体数が増えていると推定されること。もうひとつはクマの生息地が人の住む場所に近づき過ぎ、クマが人目に付きやすくなってきてることだと思います。森を切り開いて造成した住宅地などはクマの生息地と隣接していますし、昔は人とクマとの緩衝帯となっていた雑木林は手入れがされないまま、大

型動物がたやすく身を隠せる密林状態になっています。仙台市でもそのような環境が普通になってきましたので、市街地にもクマが現れるようになってきています。

この事態を防ぐ方法として環境省が推奨し全国の自治体が取り組み始めている手法が、①誘引物の除去（生ゴミや放置果樹類の除去、養蜂箱の徹底管理など）、②農地・果樹園への出没防止対策（果樹園や養魚場での誘引物の除去、電気柵の設置など）、③周辺環境の整備（法面・河川敷の下刈り、刈払い）の3点です（「クマ類出没対応マニュアル－クマが山から下りてくる－」2007年3月 環境省自然保護局）より抜粋）。

この中で青葉の森を安心してご利用いただくために実践できることは周辺環境の整備になります。青葉の森もかつては薪炭林として利用されてきた二次林*が多くを占めていますが、現在は林内に低木が多く生育した見通しの悪い暗い林となっています。もちろんそのような環境を必要とする生物もありますので全面的に整備することはありませんが、散策路の周辺だけは人とクマとの緩衝地帯となるよう、ある程度見通しが効くように常緑樹とササ類を中心に間伐していくと考えています。

このような管理方法と利用される皆さまの「クマがいるものと思って利用する」という心構えを組合せることにより、クマとの不幸な出会いを可能な限り減少させていこうと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。（干）



*二次林

人が原生林を切り開いた後に二次的に成立した林。仙台周辺はコナラ、サクラなどを中心とした落葉広葉樹林が成立します。

クルミの木の1年

園内にオニグルミの木があります。ここ管理センターの2階ベランダから手にとって見られる近さで観察することができます。そのクルミの木の一年を見てみます。

春、若葉の間から下がったヒモのようなもの、それが雄花です。よく目立つ特徴のひとつです。いっぽう雌花は、枝先の若葉の中から赤い柱頭〔注1〕がのびています。地上からではこの雌花は見えにくいですが小さく赤いのが特徴です。(ベランダから目の前で雌花を観察できます。) 雄花はその長いヒモのような穂から花粉を風で飛ばします。そして雌花は赤い柱頭を広げて花粉を受け止めます。

樹上の若い実はタール状の苦み物質タンニンを含んだ分厚い緑色の外皮につつまれ大きくなります。そのタンニンは虫や動物たちに対する防衛の役目をしています。つぶすと匂いがして手が黒くべとべになります。



春：雄花が紐のように垂れ下がっている



大きな羽状複葉の葉



ブドウのような房。この中に硬いクルミが入っている



雌花：赤い柱頭が上に向かって伸びている。膨らみはじめ



10月、ブドウの房のように連なりゴルフボール大の大きさになり熟すと落下します。そのあとは山の動物たちのごちそうとなります。細長い前歯で硬い殻を器用に真っ二つに割って食べるリスと、殻の両側から大穴を開けて食べるネズミ。落ちている殻の形で食べた動物がわかります。落下した直後は外皮がありますが時間とともに皮がはがれようやくかたい殻が見えてきます。園内で落ちているクルミをみかけたら食べた動物を想像してみてください。(a)

〔注1〕 柱頭：花粉が付着するところ

思い思いに葉っぱを手にして水面に浮かべ夢中になって自分の流した葉の行方を追っていました。

小川の流れは夏の光に輝き、小さな葉は揺れながら緩やかに流れていきます。歓声が森に広がると、そこはもう誰にも邪魔されない子どもたちだけの世界です。森で遊び楽しさを教えてもらっているのは自分のほうかもしれません。(a)

◇レンジャーのつぶやき雑記◇

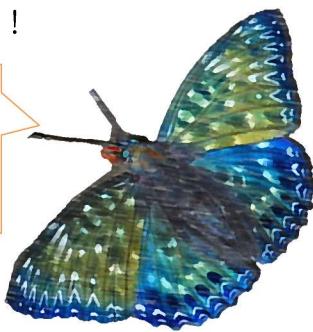
夏のある日、青葉の森に小学校1年生の子どもたちが学校行事で来てくれました。どんなことをしたら森で楽しんでもらえるかなあとガイドが始まる前はちらもつい緊張します。でもそれは杞憂であることが多いのです。子どもたちは初めて訪れた森に戸惑っていたようでしたが、ガイドの途中で小川を見つけると

森の中でさがしてみよう！

かくれんぼ名人「スミナガシ」の幼虫！

夏の森を舞う美しい蝶“スミナガシ（墨流し）”とその幼虫を探してみよう！

カラフルなのに落ち着いた印象の美しい翅と赤いストローのような“くち”的組み合わせが粹！



◇小さな幼虫を探そう！

☆見つけるポイント！

①アワブキの木を探す



アワブキ（泡吹）落葉高木
＝＝葉っぱデータ＝＝
長さ：8～25cm
幅：4～8cm
厚さ：うすい
葉脈がほぼ平行に20～28対
規則正しく並ぶ。

②先端が七夕飾りの“吹き流し”のように垂れ下がり、チリチリになっている葉を探す

③その葉っぱ中央の太い葉脈を見る



※幼虫の段階であれば、アワブキの木から移動しないので成虫や蛹に比べると簡単に見つけることができます。

※ブログ版の記事「かくれんぼ名人！スミナガシの幼虫」でアワブキの木が観察できるスポット等を詳しく紹介！水面に墨を一滴落としてその流れる様を紙で吸い取る“墨流しあそび”を試した様子も掲載しています。

7・8・9月のイベント情報！《要申込み》

内容や申込方法などの詳細は市政だより、ブログ、ホームページをチェック！

7/21（土）	青葉の森の夏の陣「手づくり水鉄砲で大合戦」	小学生親子	40人
7/28（土）	手づくりマイ箸＆マイスプーン	高校生以上	15人
8/12（日）	家族で森あるき	小学生（3年生以上）親子	15人
9/15（土）（予定）	葉っぱ模様のバンダナを染めよう！	4歳～小学生の親子	20人
9/29（土）（予定）	紙漉き体験！「雑草で作る和紙はがき」	どなたでも	15人

■仙台市公園緑地協会ホームページ

<http://www.sendai-park.or.jp/web/info/aobanomori/index.html>
(杜のひろば)

■青葉の森緑地 スタッフブログ

青葉の森緑地 ブログ で検索！

季刊情報誌「青葉の森から」第49号 2018年7月6日発行

[発行] 公益財団法人仙台市公園緑地協会

[編集] 仙台市青葉の森緑地 青葉の森管理センター

開館時間/午前9時～午後4時30分 休館日/月曜・年末年始

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉260

TEL: 022-263-2101 FAX: 022-263-2102

地下鉄東西線「青葉山駅」から徒歩15分

◇脱皮して少し大きくなった幼虫を探そう！

☆見つけるポイント！

- ・アワブキの葉っぱの上に黒い粒（フン）が落ちている？
- ・葉っぱが食べられて小さくなっている？
- ・葉っぱの上に“角”の生えたイモムシ！



茶色の幼虫が緑色になると蛹（さなぎ）に変身します。

◇蛹（さなぎ）も探せるかな？

☆見つけるポイント

- ・まるで茶色い枯葉のよう！



虫食い穴まで再現されている、驚くべき造形美。
(原寸大)

◇成虫も見てみたい！

☆見つけるポイント！

- ・時期は8月～9月（初夏にも発生します）
- ・沢沿いにいることが多い
- ・食べ物は樹液、動物のフンなど

散策にいらしたら、小さな生きものとの出会いも楽しんで下さいね！(K)

■仙台市公園緑地協会ホームページ

<http://www.sendai-park.or.jp/web/info/aobanomori/index.html>
(杜のひろば)

■青葉の森緑地 スタッフブログ

青葉の森緑地 ブログ で検索！

